第 25 回内分泌外科学会　Meet the Professor

◆ Professor に聞きました

伊藤　公一
伊藤病院

略　歴

北里大学医学部卒業後
1985 年　5 月　東京女子医科大学　内分泌外科学教室入局
1987 年　5 月　平塚胃腸病院（1 年間派遣）
1990 年　10 月　東京大学医科学研究所　細胞遺伝部（1 年 8 ヵ月国内留学）
1992 年　5 月　東京女子医科大学　内分泌外科学教室　助手
1992 年　7 月　米国シカゴ大学　内分泌外科（2 年間留学）
1994 年　7 月　東京女子医科大学　内分泌外科学教室　助手
1995 年　1 月　伊藤病院着任
　　東京女子医科大学　内分泌外科学教室非常勤講師
1998 年　1 月　伊藤病院院長就任
2002 年　4 月　筑波大学大学院　外科学教室非常勤講師
2005 年　4 月　日本医科大学　外科学教室客員教授
2008 年　4 月　了徳寺大学　健康科学部　客員教授

内分泌外科領域のアピールポイント

医師免許取得後、直ちに東京女子医大内分泌センター外科に入局し、留学期間も含めて 10 年間、内分泌疾患診療と研究の基礎を学びました。その後、伊藤病院に勤務、3 年後に院長職を継承し、16 年目となります。このように、ひたすらに甲状腺疾患・副甲状腺疾患に関わってまいりました。それらの経験を最大限、活かしつつ、学会理事として日本の内分泌外科学会発展に尽くしているつもりです。

今回の“Meet the Professor”でお話しされたいこと

バセドウ病治療について、若手の先生方とディスカッションを交わしたく存じます。
バセドウ病治療は臨床検査法の進歩、アイソトープ治療の適応拡大に伴い、手術適応症例が狭まり、症例数は減少傾向にあります。とはいえ、手術が絶対的に必要な場合は存在し、内分泌外科医には、安全・安心な対応が求められ続けます。そこで適応から手術方法、合併症対策までを考えてみたいと思います。

趣　味

街中徘徊、飲酒、ゴルフ、読書、随筆執筆